

人間発達学部
KAYO Miyoko
PROFILE
<b>職名</b> 人間発達学部 児童教育学科教授
<b>学歴</b> 東京教育大学大学院教育学 研究科教育心理学専攻修士 課程修了（1978）
<b>学位</b> 教育学修士（東京教育大学、 1978）
<b>所属学会</b> 日本発達心理学会、日本保 育学会
<b>専門分野</b> 発達心理学、保育学

## 加用 美代子

かよう みよこ

**研究課題1 ●子どもの遊びの発達**

**研究課題2 ●育児力の発達**

### 業 績

#### 【著書】

『子育て百科 誕生から思春期まで』/「ことばとイメージ」「衣服の着脱とおとなのかかわり」「子どものコーナー」「清潔なからだ」、大月書店、1977年9月、共著。

『子どもの遊びと発達』/「乳児期の遊びと発達」、ひとなる書房、1983年4月、共著。

『幼児の生活づくりと自立』/「〇〇マンガっこに夢中になる子どもについて」、ひとなる書房、1987年8月、共著。

『ちいさいなかま 保育の本7 けんか、きょうだい』/「きょうだいの年齢差とけんか」、草土文化、1989年1月、共著。

『乳児のあそび指導—あそび心たいせつに』/「いつでも、どこでも、どんなことでもあそびになる」、ひとなる書房、1989年2月、共編著。

『育ちあう乳幼児心理学』/「現代の子育て社会」、有斐閣、2000年9月、共著。

『現代保育学入門』/「育つと育てるのあいだ—発達と保育」、フレーベル館、2001年2月、共著。

『実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方』/「1歳児クラスの保育計画・山口陽子さんの計画と実践へのコメント」「2歳児クラスの保育計画・伊藤ふき子さんの計画と実践へのコメント」「2歳児クラスの保育計画・射場美恵子さんの計画と実践へのコメント」、ひとなる書房、2004年8月、共編。

『保育小辞典』/「興味」「ケア」「詩」「図鑑」「乳幼児」「能力」、大月書店、2006年6月、共著。

『NEW 現代保育学入門』(改訂版)/「育つと育てるのあいだ」、フレーベル館、2006年12月、共著。

#### 【学術論文】

「幼児の身振りに関する研究—道具を用いる行為の再現を通して」/『心理科学と実践の結合をめざして—2』、1977年9月、単著。

「Aくんのケース・ケース研究」/『障害児等保育研究』第1号、1978年10月、共著。

「発達研究会での基本的論議」/『障害児等保育研究』第1号、1978年10月、共著。

「東京都N保健所における1才6か月健診の実践的検討」/『心理科学研究第3巻』第2号、1980年3月、共著。

「伊藤保育園Aくんのケース」/『障害児等保育研究』第2号、1981年5月、共著。

「今日の家庭育児の実態と母親の育児意識—大垣市における3才以下の子どもを持つ家庭の場合—」/『大垣女子短期大学研究紀要』第36号、1995年3月、単著。

「子どもの自我形成と大人からの評価—「ほめる」ことを糸口に考える」/『現代と保育』第36号、1995年8月、単著。

「3才未満児を持つ母親の育児意識に関する調査—社会的関係と育児感情を中心

に」/『大垣女子短期大学研究紀要』第37号、1996年8月、共著。

「母親研究の視点について」/『大垣女子短期大学研究紀要』第38号、1997年3月、単著。

「子どもたちへのまなごしにしていねいさとおおらかさを」/『季刊保育問題研究』169号、1998年2月、単著。

「育児期における女性のライフスタイルと育児意識の変化」/『滋賀文化短期大学研究紀要』第12号、2003年3月、単著。

「保育士養成の現状と課題—養成する立場の実状を通して」/『季刊保育問題研究』202号、2003年7月、単著。

「児童の生活と高齢者との関わり—滋賀県下における実態調査の結果から—」/『滋賀文化短期大学研究紀要』第13号、2004年3月、共著。

「就学前児を持つ親の意識と行動(1)—母親の就労の有無を手がかりに—」/『滋賀文化短期大学研究紀要』第14号、2005年3月、単著。

「二歳児の発達と生活・遊び」/『ちいさいなかま』臨時増刊号、2009年1月、単著。

「保育の実践と概念をより豊かに 『一緒に食べる・おいしく食べる・楽しく食べる』を検討する(1) その気になるいろいろ」/『現代と保育』74号、2009年7月、単著。

「保育の実践と概念をより豊かに 『一緒に食べる・おいしく食べる・楽しく食べる』を検討する(2) 子どもの揺れ動きをとらえつつ保育をすすめる」/『現代と保育』75号、2009年11月、単著。

「保育の実践と概念をより豊かに 『一緒に食べる・おいしく食べる・楽しく食べる』を検討する(3) 食べたいものを食べたいだけ食べていい!？」/『現代と保育』76号、2010年3月、単著。

「保育の実践と概念をより豊かに 『一緒に食べる・おいしく食べる・楽しく食べる』を検討する(4) 自分で決める 自分で動く」/『現代と保育』77号、2010年7月、単著。

「保育の実践と概念をより豊かに 『一緒に食べる・おいしく食べる・楽しく食べる』を検討する(5) かかわりの中で育まれる選びとる力」/『現代と保育』78号、2010年11月、単著。

#### 【翻訳】

『注意の実験的形成』(ガリペリン、カピリニツカヤ著)/明治図書、1979年5月、共訳。

『現代の子ども期：家族と子どもに関する今世紀の変化と概念』(Dion Sommer 著)/『International Journal of early Childhood』Vol.30 N0.1 (日本語版) OMEP日本委員会、1998年10月、単訳。

#### 【国内学会発表】

「3歳未満児を持つ母親の育児実態と意識に関する調査」/日本保育学会第48回大会、1995年5月、共同。

「女子青年の母性意識—伝統的役割分業の解消を想定した場合」/日本発達心理学会第8回大会、1997年3月、共同。

「保育学生の母性意識—育児の社会化との関係を視野において」/日本保育学会第50回大会、1997年5月、共同。

「就学前児を持つ親の育児意識を規定する要因(1)—専業主婦と就労女性の比較から—」/日本発達心理学会第14回大会（場所：神戸国際会議場）、2003年3月、共同。

「就学前児を持つ親の育児意識について(2)—母親の就労状況と「生活スタイル共有」からみた父母分析」/日本発達心理学会第15回大会（場所：白百合女子大学）、2004年3月、共同。

「子育て支援をめぐる保育者の意識」/日本保育学会第57回大会（場所：神戸親和女子大学）、2004年5月、共同。

#### 【その他】

＜報告書＞『育児力の形成過程の解明—自己実現要求と育児労働との葛藤克服過程の分析を通して』/「母親の自己実現と育児に関する諸視点」「育児をめぐる父親の行動と意識について」「就学前児を持つ母親と父親の育児意識」「就学前児を持つ母親への面接調査—ライフスタイルと育児意識を中心に—」「育児支援をめぐる保育者の意識について」「デンマークの子育てと諸制度」「デンマークの親と保育者の育児意識調査」、科学研究費補助金基盤研究(C)(2)/平成12・13・14年度研究成果報告書、2003年3月、共著。

＜報告書＞『高齢社会における児童・生徒の意識と行動に関する調査研究報告書—子どもと高齢者とのかかわりはどうなっているのか—』、財団法人 滋賀県レイカディア振興財団、2003年3月、共著。